

## 綾渡平勝寺への西国三十三観音像

著者	藤森 修
雑誌名	名古屋学院大学論集；医学・健康科学・スポーツ科学篇
巻	3
号	1
ページ	51-68
発行年	2014-09-30
URL	<a href="http://doi.org/10.15012/00000043">http://doi.org/10.15012/00000043</a>

〔調査報告〕

## 綾渡平勝寺への西国三十三観音像

藤 森 修

### はじめに

筆者は名古屋学院大学に赴任する2006年までの約30年、大分と名古屋で医学部解剖学講座に籍を置いて解剖学の教育と研究に携わってきた。医学部教育における解剖学、その中でも医学の根幹である人体構造の理解のための肉眼解剖学実習、すなわち人体解剖実習は人体の精緻な構造の学習に留まらず、生命や死の尊厳について自学自問する場としても重要な意義をもっている。そのような肉眼解剖学実習は、死後自らの体を医学の教育研究のために提供すると申し出をされた篤志の方々の献体という崇高な行為によって維持され、実現している。筆者は解剖学の教育と研究の傍らで献体登録者の方々、献体者のご遺族の方々と接する機会も少なからずあって、折に触れて献体についての思いなども伺っていた。

筆者が助手となった1980年前後は、まだ全国的に解剖実習用のご遺体が不足しており、解剖学講座の教員にとってご遺体の確保は最重要の課題であった。献体への理解や啓蒙のために度々諸施設を訪れることはもちろん、献体の連絡があればご遺体を受け取りに年末年始や昼夜を問わず、また実験を中断してでも出かけたも

のである。それから30数年後の今は隔世の感があり、献体登録を希望する方が増え、大学によっては登録を一時的にお断りするところも出て来ている。解剖学教育に携わる者としては、実習に供するご遺体を十分に確保できることは喜ぶべきことではあろうが、この30年ほどの間、その背景に筆者の乏しい語彙では十分に言い表せない、死を取り巻く世の中の変化を感じて来ていた。そのことが、「我々はどのように人を弔って来たのか、弔われて来たのか」という疑問と関心を筆者に抱かせ、やがて足助の綾渡で伝承されている夜念仏を知るようになった。

夜念仏と盆踊りの里、旧足助町綾渡（現、豊田市綾渡町）は二十数戸の人家が散在するのどかな山里で、足助の市街から6、7キロほど入った標高およそ500メートルのところにある。夜念仏とは、新盆を迎える家々を回り、念仏を手向けその後に盆踊りで新仏を供養する盆の信仰行事で、かつてはこの地方でも奥三河から恵那にかけて広く行われていたが、今はこの綾渡の里に残されているのみである。もともと足助の夜念仏は若連（わかれん）と呼ばれる35歳までの男子たちによって行われていた行事で、8月10日は綾渡の平勝寺の施餓鬼供養、同13日、14日は新仏のある家、15日は他村を回り、17

日は平勝寺の観音供養を行っていた。しかし戦後の経済成長にともなって青年の数が減少し、若連の継続が難しくなったので、昭和35年には保存会を結成して数百年続いて来た伝統行事を継承している。今は新盆の家々を回ることはなくなり、8月10日と15日に平勝寺の境内で、保存会の男衆による夜念仏と老若男女が参加する盆踊りを行っている。この盆踊りも一切の楽器を使わず、音頭取りの歌う唄に合わせて手拍子、足拍子だけで踊る実に素朴なものである。

夜念仏が行われる鳳凰山平勝寺は聖徳太子によって開かれたと伝えられ、保元の乱の頃に戦火で消失したものの、平治元年（1159年）に再建され、後醍醐天皇の第三皇子平勝親王との縁により、元弘元年（1331年）檀独山大悲密院から鳳凰山平勝寺と改めて今日に至っている古刹である。山道を上って辿り着く地にありながら、古より広く足助の各所から多くの人々の信仰を集めたことが、寺に残された絵馬や文書などに記されている。往時から信仰の厚かったことは、江戸時代の末期に足助市街から平勝寺に至る3本の山道に、多くの篤志の人々によって坂東三十三観音像、秩父三十四観音像、西国三十三観音像の百体の石の観音菩薩像が祀られたことから伺い知ることができる。百観音菩薩像は坂東三十三観音が慶應元年7月に、秩父三十四観音が慶應2年7月に、西国三十三観音が慶應2年8月につくられ、そのいずれもが平勝寺門前を終点としている。

時代が下り昭和の高度成長期に至ると、やがて足助の山里にも自動車が通れる道が新たに切り開かれ、かつて人々が平勝寺に詣でるときに通った道を含め、旧道すなわち人が歩く幅しかない狭い“根道”と呼ばれた集落の道々は、林業に携わる村人がたまさか通るほかには通う人もなくなり、所によっては草に埋もれ藪に被わ

れるようになった。一部の観音菩薩像は敷設された新道脇に移されたものの、旧道に取り残された石仏たちが人目に触れる機会は次第に少なくなってきた。

筆者は「我々はどうのように人を弔い、弔われて来たのか」という関心をきっかけに綾渡の夜念仏を繰返し訪れるうちに、僅かな世帯数の山里で主に口伝で伝えられて来ているこのような行事、それを育んで来た風土を記録し残しておくことの意義を感じ、その一環として平勝寺に至る道に祀られている百観音菩薩像について調査、記録することにした。今回の報告は百観音像のうち西国三十三観音像についての調査記録である。

## 調査対象

今回の調査対象は平勝寺に至る道筋に祀られている西国三十三観音像である。西国三十三観音像は足助市街を貫通する国道153号線から分かれて設楽へ向かう国道420号線（鳳来寺道）沿いの安実京（あじきょう）に第一番が祀られている。この安実京から有洞（うとう）、山ヶ谷（やまがい）、椿立（つばきだち）を経て綾渡の平勝寺に上がる旧道や新道に沿って順番に点在している（図1）が、もともと丁名佛（ちょうなぶつ）、すなわち道標の意味もあって、平勝寺に至るまでほぼ等間隔に置かれていたようである。しかしながら、道路や敷地の関係などにより、設置当時の場所から移設されたものもあり、現在ではほぼ順番通りになっているものの間隔は一定していない。菩薩像の祀られている場所などは、平成2年に平勝寺住職の佐藤一道師によって調べられており、その時につくられた手書きの地図や資料を参考にさせていただいた。

## 像容計測と彫字判読、写真撮影

観音像は光背と一体となって彫られており、観音像本体のみの計測は不可能なので、正面から光背の高さと横幅を計測した。高さの計測は最大高とし、横幅は観音像の顔のオトガイ下縁（下顎の直下）の高さと像の底辺（下端部）の2カ所を計測したが、必ずしも最大幅の位置ではない。台座、蓮華台、敷茄子、荷葉台などに載っている場合は、その高さと幅も計測した。また全ての観音像下部に彫られたそれぞれの番号と、台座などに刻まれた名前や在所なども、残されている資料とも照らし合わせながら可能な限り記録した。苔がこびりついて判読が難しいものも多くあったが、破損や摩耗などを避けるためブラシなどを使って取り除くことはせず、現状維持を心がけた。

像容を計測した後、正面から観音像の写真撮影を行った。涎掛けがかけである場合は外して撮影し、撮影後ふたたび装着した。

## 調査結果

三十三体の観音像はいずれも舟形光背を背に

して彫られており、その内訳は聖観世音菩薩4体、如意輪観音6体、十一面観世音菩薩6体、千手観世音菩薩11体、十一面千手観世音菩薩3体、不空絹索観世音菩薩1体、准胝観世音菩薩1体、馬頭観世音菩薩1体であった。往時、それぞれの石像制作者は西国三十三観音像のご本尊を調べ、それに倣って制作したものと推察されるが、風化により像容がはっきりとは読み取れないものもあり、判別に迷うものもあった。例えば第十九番、第二十番、第二十二番はそれまで千手観世音菩薩とされていたが、平成25年に立てられた標識では十一面千手観世音菩薩に変更されている。いずれの像も頭部に十一面が彫られているようにも見えるが、他の像との比較と西国三十三観音の本尊から判断して、本調査ではいずれも千手観世音菩薩とした。

像容の写真と図、計測値、判読した彫字などの調査結果は以下の一覧表にまとめた。計測値の単位はセンチメートルである。写真は正面像であるが、第四番は高さ5メートルほどの崖の縁に道に面して置かれており、計測などは辛うじて後からできたが、正面から撮影するためには足場を組まなくては不可能であったため、斜め下から撮影したものを掲載した。




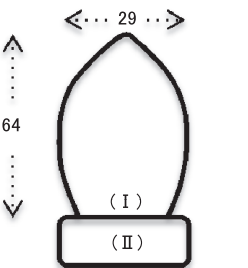

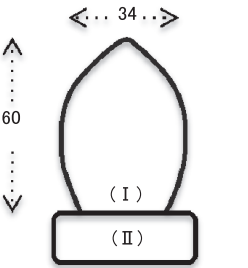

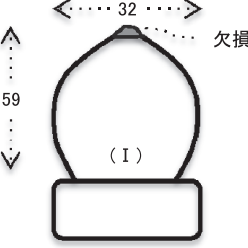


(図1) 安実京から平勝寺に至る現在の舗装道を赤線で示し、観音像の平成25年8月現在の位置をそれぞれの番号で示す。この時点では第十三番は欠如していた。安実京から山ヶ谷に至る舗装道の一部は幅が車両1台分程度である。(この背景地図等データは、国土地理院の電子国土Webシステムから配信されたものである)。


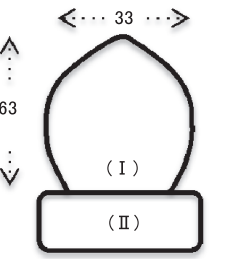

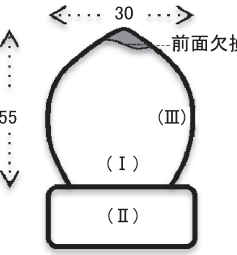

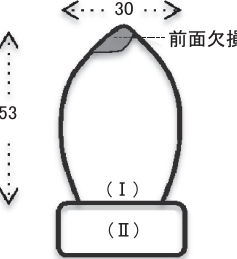
<p>西国一番</p> 	 <p>像 底部幅 蓮華座 高さ 12 幅 43 敷茄子 高さ 8 幅 27 荷葉台 高さ 26 幅 50</p>	<p>尊名:如意輪観世音菩薩 像容:坐像(輪王坐像 右膝を立てる) 一面六臂像 右手:頬に当てて思惟、宝珠 左手:台座にのぼす 開敷蓮華 左肩に法輪 彫字:(I) 西国第一番</p>
<p>西国二番</p> 	 <p>像 底部幅 26 台座 高さ 21 幅 39</p>	<p>尊名:十一面観世音菩薩 像容:立像 二臂像 右手:錫杖 左手:開敷蓮華を挿した水瓶 彫字:(I) 第二番</p>
<p>西国三番</p> 	 <p>像 底部幅 24 台座 高さ 16 幅 37</p>	<p>尊名:千手観世音菩薩 像容:立像 十二臂像 正面二手合掌 右手:不明 左手:三叉戟、日輪、三手持物なし 彫字:(I) 第三番 (II) ■■■村 佐平</p>


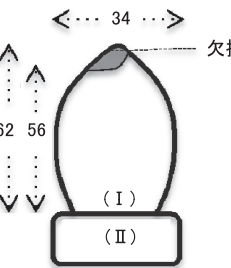
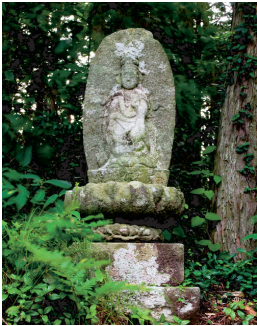
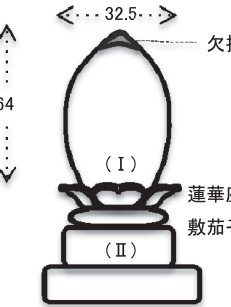

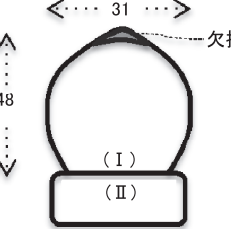
<p>西国四番</p> 	 <p>像 底部幅 26 台座 なし</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩          像容: 立像              十二臂像              正面二手合掌              右手; 錫杖、月輪、三手持物なし              左手; 三叉戟、日輪、三手持物なし          彫字: (I) 第四番</p>
<p>西国五番</p> 	 <p>像 底部幅 26 台座 高さ 21 幅 37</p>	<p>尊名: 十一面千手観世音菩薩          像容: 坐像(結跏趺坐像)              八臂像              正面二手合掌              右手; 月輪、二手持物なし              左手; 日輪、二手持物なし          彫字: (I) 第五番</p>
<p>西国六番</p> 	 <p>像 底部幅 22 台座 高さ 14 幅 25</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩          像容: 坐像(結跏趺坐像)              十臂像              正面二手合掌              その他は不明          彫字: (I) 第六番(薄くて分かり難い)</p>




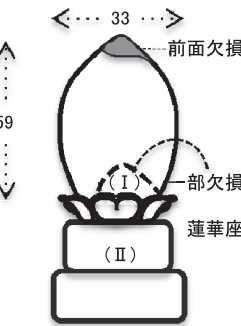

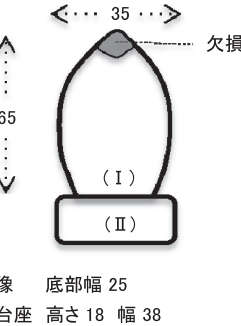

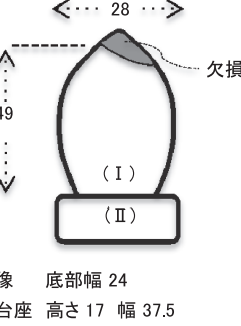
<p>西国七番</p> 	 <p>像 底部幅 25 台座 高さ 21 幅 37</p>	<p>尊名: 如意輪観世音菩薩          像容: 坐像(半跏倚像、左足を垂下)          一面二臂像(岩座に坐す)          右手: 頬に当てて思惟          左手: 左膝の位置で与願印          彫字: (I) 第七番          (II) 村 大山金右工門          政右工門          十右工門          御内村 新兵工</p>
<p>西国八番</p> 	 <p>像 底部幅 25 台座 高さ 19 幅 38 頂部欠損は僅か</p>	<p>尊名: 十一面観世音菩薩          像容: 立像          二臂像          右手: 錫杖(やや薄い)          左手: 開敷蓮華を挿した水瓶          彫字: (I) 第八番(彫字は薄い)          (II) 村 大山儀兵工          御内村 傳三郎          綾渡村 ■田■■</p>
<p>西国九番</p> 	 <p>像 底部幅 24.5 台座 高さ 19 幅 47</p>	<p>尊名: 不空羂索観世音菩薩          像容: 坐像(結跏趺坐像)          六臂像          正面二手合掌          右手: 錫杖、与願印          左手: 変形の蓮華、与願印          彫字: (I) 第九番(彫字は薄い)          台座は後補</p> <p>2013年に立てられた標識には尊名が千手観世音菩薩とあるが、像容および西国三十三観音第9番の興福寺南円堂の本尊が不空羂索観世音菩薩であることに鑑みて、本観音像は不空羂索観世音菩薩であると思われる。</p>


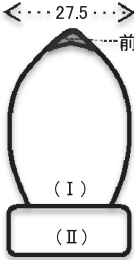



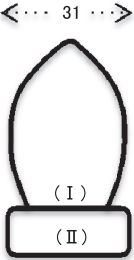
<p>西国十番</p> 	 <p>像 底部幅 23.5 蓮華座 高さ 10.5 幅 25.5</p>	<p>尊名: 聖観世音菩薩 像容: 立像 正面二手合掌 風化のため他は不明 彫字: (I) 第十番 (彫字薄い) (II) 願主 綾渡村 原田 ■■■ (III) 正面: 十八ばん 西 當所かんのん道 右: 十六ばん 東 あやどかんのん道 十九ばん 南 かわはたかんのん 左: 西 あすけかんのん 十七ばん 北 うるしばたかんのん道 西国十番三室戸寺の本尊は十一面観音であるが、本像は正面 二手しか認められないので聖観世音菩薩とするのが適当と思 われる。 台座(上) 高さ 37 幅 21 台座(下) 高さ 19 幅 40</p>
<p>西国十一番</p> 	 <p>像 底部幅 24 台座 高さ 19 幅 38</p>	<p>尊名: 准胝観世音菩薩 像容: 坐像 一般的な十八臂であるかどうか不明 十臂は確認できる 正面二手 説法印 三眼は不明 彫字: (I) 拾一番 (II) 落部 安藤利助 (III) 放光佛成信女 (IV) ■意童女</p>
<p>西国十二番</p> 	 <p>像 底部幅 25 台座 高さ 17 幅 37</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩 像容: 立像 十四臂像 正面二手合掌 右手: 錫杖、月輪、四手持物なし 左手: 三叉戟、日輪、三手持物なし 彫字: (I) 拾二番 (II) 沢口村 市川傳蔵 (III) 嶺頭空白信士 (IV) 覚林玄了信士 (覚は旧字体)</p>


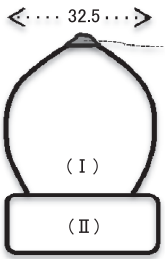

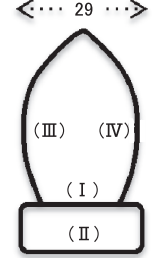

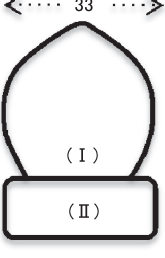
<p>西国十三番</p> 	<p>63</p>  <p>像 底部幅 台座 高さ 24.5 幅 37.5</p>	<p>尊名: 如意輪観世音菩薩          像容: 坐像(半跏倚像 左足を垂下)          一面六臂像          右手; 頬に当てて思惟、宝珠          自然に垂らして念珠          左手; 台座に伸ばす、開敷蓮華          指先に法輪          彫字: (I) 拾三番          (II) 寄贈 山谷町 筒井敏夫          落部 伊藤満 作</p> <p>元の西国十三番は岩座に座した一面二臂の如意輪観音菩薩像で、寄贈は落部の野田甚五郎と記されていたが、平成17年8月に盗難に遭い紛失。現在の像は平成25年に新たに寄贈、設置されたものである。</p>
<p>西国十四番</p> 	<p>55</p>  <p>像 底部幅 24.5 台座 高さ 18 幅 37</p>	<p>尊名: 如意輪観世音菩薩          像容: 坐像(輪王坐像、右膝を立てる)          一面六臂像          右手; 頬に当てて思惟、宝珠          自然に垂らして念珠          左手; 台座に伸ばす、開敷蓮華          左肩脇に金輪          彫字: (I) 拾四番          (II) 浅ヶ谷村          筒井清助、クニ、村々志中          同 亀吉          クニ          村々志中          (III) ■■■■信女</p>
<p>西国十五番</p> 	<p>53</p>  <p>像 底部幅 24 台座 高さ 19 幅 37</p>	<p>尊名: 十一面観世音菩薩          像容: 立像          二臂像          右手; 与願印          左手; 開敷蓮華          彫字: (I) 十五番          (II) 落部          安藤銀冶郎</p>


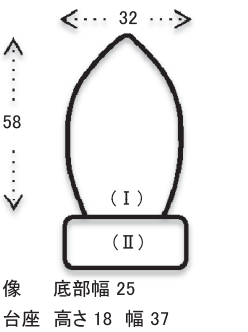

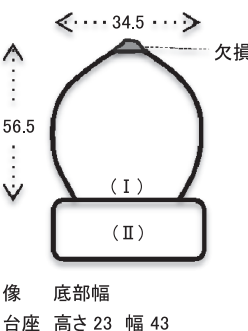

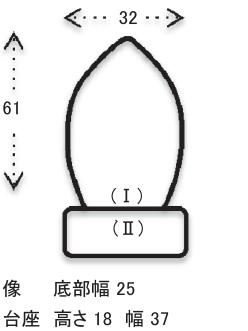
<p>西国十六番</p> 	 <p>像 底部幅 25 台座 高さ 23 幅 38</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩 像容: 立像 十二臂像 正面二手合掌 右手; 錫杖、月輪 左手; 三叉戟、日輪 彫字: (I) 拾六番 (II) 足助 染谷市左門 落部 安藤惣兵衛 大見村 善治郎 惣田村中</p>
<p>西国十七番</p> 	 <p>蓮華座 高さ 13 幅 40 敷茄子 高さ 8 幅 27</p> <p>像 底部幅 25 台座(上) 高さ 14 幅 38 (下) 高さ 15 幅 47</p>	<p>尊名: 十一面観世音菩薩 像容: 立像 二臂像 右手; 与願印 左手; 施無畏印 彫字: (I) 拾七番 (II) 施主 川端村 川合半兵衛 同 傳工門 九左門 原田幸右門</p>
<p>西国十八番</p> 	 <p>像 底部幅 台座 高さ 15-17 幅 37</p>	<p>尊名: 如意輪観世音菩薩 像容: 坐像(輪王坐像、右膝を立てる) 一面六臂像 右手; 頬に当てて思惟、宝珠 自然に垂らして念珠 左手; 台座に伸ばす、開敷蓮華 左肩脇に法輪 彫字: (I) 拾八番 (II) 戸中村中</p>





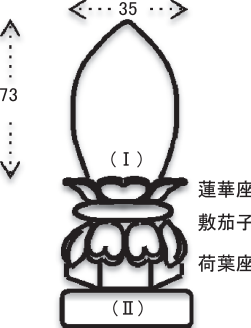
<p>西国十九番</p> 	 <p>像 底部幅 24 蓮華座 高さ 12 幅 35 台座(上) 高さ 15 幅 38 (下) 高さ 右21-左15 幅51</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩 像容: 立像 十二臂像 正面二手合掌 右手; 錫杖、月輪 左手; 三叉戟、日輪 彫字: (I) 拾九番 (ただし欠損のため九は見えない) (II) 當村 筒井■助 同 幸助 同 ■助 同 角左工門 同 忠兵工 下縁の欠損部 高さ 10 底辺 15 頭部に十一面がのっているようにも見えるので、平成25年に立てられた標識では尊名が十一面千手観世音菩薩に変更されている。</p>
<p>西国二十番</p> 	 <p>像 底部幅 25 台座 高さ 18 幅 38</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩 像容: 立像 二臂像 正面二手合掌 彫字: (I) 二拾番 (II) 落部 安藤代助 庵主■尼 頭部に十一面がのっているようにも見えるので、平成25年に立てられた標識では尊名が十一面千手観世音菩薩に変更されている。</p>
<p>西国二十一番</p> 	 <p>像 底部幅 24 台座 高さ 17 幅 37.5</p>	<p>尊名: 聖観世音菩薩 像容: 立像 二臂像 右手; 与願印 左手; 未開敷蓮華 彫字: (I) 二拾一番 (II) 浅ヶ谷村 加藤七左工門 筒井幸助 村々志中</p>

<p>西国二十二番</p>  <p>像 底部幅 24 台座 高さ 18 幅 37</p>	 <p>←… 27.5 …→ 前面欠損 像 底部幅 24 台座 高さ 18 幅 37</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩 像容: 立像 右手: 錫杖、月輪 左手: 三叉戟、月輪 彫字: (I) 西国二拾二番 (II) 大見村 川合幸四郎 同 傳七 同 善四郎 大山丈助</p> <p>頭部に十一面がのっているようにも見えるので、平成25年に立てられた標識では尊名が十一面千手観世音菩薩に変更されている。</p>
<p>西国二十三番</p>  <p>像 底部幅 台座 高さ 18 幅 37</p> <p>頂部前面欠損は僅か</p>	 <p>←… 30 …→ 前面欠損 像 底部幅 台座 高さ 18 幅 37</p>	<p>尊名: 十一面千手観世音菩薩 像容: 立像 十二臂像 正面二手合掌 右手: 錫杖、月輪 左手: 三叉戟、月輪 彫字: (I) 西国二拾三番 (II) 大見村 大山吉右エ門 同 ■五郎 同 久左エ門 山本■助</p>
<p>西国二十四番</p>  <p>像 底部幅 24 台座 高さ 18 幅 38</p>	 <p>←… 31 …→ 像 底部幅 24 台座 高さ 18 幅 38</p>	<p>尊名: 十一面観世音菩薩 像容: 立像 二臂像 右手: 与願印 左手: 不明 彫字: (I) 西国二拾四番 (II) 大見村 山本平八 同 米蔵 同 栄蔵 大山八五郎 (光背に火焰光が僅かに残る)</p>

<p>西国二十五番</p> 	<p>              像 底部幅 25            台座 高さ 18 幅 37.5         </p>	<p>           尊名:十一面千手観世音菩薩            像容:坐像(結跏趺坐像)            十二臂像            正面二手合掌            右手;錫杖、月輪            左手;三叉戟、日輪            彫字:(I)西国二拾五番            (II)椿立村            黒柳周助            同 宗左工門            東加塩村            高山常五郎            同 信蔵            怒田沢村            加納         </p>
<p>西国二十六番</p> 	<p>              像 底部幅 24            台座 高さ 17 幅 37         </p>	<p>           尊名:聖観世音菩薩            像容:立像 二臂像            右手;施無畏印            左手;水瓶            彫字:(I)西国二拾六番            (II)村            藤沢■■■            明川            川合■七            盡無童子            祐葉童女         </p>
<p>西国二十七番</p> 	<p>              像 底部幅 24            台座 高さ 16 幅 37         </p>	<p>           尊名:如意輪観世音菩薩            像容:坐像(輪王坐像、右膝を立てる)            一面六臂像            右手;頬に当てて思惟、宝珠、自然に垂らして念珠            左手;台座に伸ばす、未開敷蓮華、左肩脇に金輪            彫字:(I)西国二拾七番            (II)村            藤沢藤七            内藤■■■            リウ            怒田沢村 とく         </p>

<p>西国二十八番</p> 	 <p>像 底部幅 25 台座 高さ 18 幅 37</p>	<p>尊名: 聖観世音菩薩 像容: 立像 二臂像 右手: 与願印 左手: 開敷蓮華を挿した水瓶 彫字: (I) 西国二拾八番 (II) 村 原田 ■ 太郎 椿立 黒柳 鈴木</p>
<p>西国二十九番</p> 	 <p>像 底部幅 台座 高さ 23 幅 43 頂部欠損は僅か</p>	<p>尊名: 馬頭観世音菩薩 像容: 坐像(輪王坐像、右膝を立てる) 三面八臂像(馬頭一つ) 忿怒相 正面二手合掌 右手: 上から宝棒、斧、与願印 左手: 上から輪宝、水瓶、数珠 彫字: (I) 西国二拾九番 (II) 村 藤沢金郎 鈴木 ■ ■</p>
<p>西国三十番</p> 	 <p>像 底部幅 25 台座 高さ 18 幅 37</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩 像容: 立像 十二臂像 正面二手合掌 右手: 錫杖、月輪 左手: 三叉戟、日輪 彫字: (I) 西国三拾番 (II) 丹羽村 山田元右工門 同 久兵工 松井濤五郎 同 与右工門</p>



<p>西国三十一番</p> 	 <p>像 底部幅 24 台座 高さ 14 幅 38</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩 像容: 立像 十二臂像 正面二手合掌 右手: 錫杖、月輪 左手: 三叉戟、日輪 彫字: (I) 西国三拾一番 (II) 山蔭村</p>
<p>西国三十二番</p> 	 <p>像 底部幅 24.5 台座 高さ 21 幅 37</p>	<p>尊名: 千手観世音菩薩 像容: 立像 十二臂像 正面二手合掌 右手: 錫杖 左手: 三叉戟 彫字: (I) 西国三拾二番 (II) 大見村 大山八右工門 同 佐治右工門</p>
<p>西国三十三番</p> 	 <p>像 底部幅 27 蓮華座 高さ 13.5 幅 44.5 敷茄子 高さ 9 幅 31</p>	<p>尊名: 十一面観世音菩薩 像容: 立像 二臂像 右手: 与願印 左手: 開敷蓮華を挿した水瓶 彫字: (I) 西国三拾三番 (II) 施主 葛澤村中 慶應二年寅八月吉日</p> <p>荷葉台 高さ 27 幅 50 台座 高さ 20 幅 58</p>

## 終わりに

古くから旧東加茂郡と旧西加茂郡（現在はみよし市をのぞき全て豊田市に編入されている）を通る飯田街道（名古屋―飯田）や岡崎と飯田街道の足助をつなぐ足助街道の道沿いには石の野仏が多い。平勝寺への道沿いに祀られている百観音は、いずれもその最終番号の観音像に年月が彫字されていることから、江戸時代末期につくられたものであることがわかる。地元の人々の話によると材は足助産の御影石である。足助の御影石は柔らかく脆いと言われ、それ故か、百年以上の時を経た観音像のほとんどは風化が進んでおり、角がとれて丸みを帯び、彫字の判読が難しいものも多かった。また根道と呼ばれる旧道は分かりづらく、時にはマムシに注意、クマに注意の看板を見ながら、山の中の草や藪を分け入ってようやく辿り着いた観音像も少なくない。西国三十三観音像が祀られているのは安美京、有洞、山ヶ谷、椿立の一部、綾渡の地区であるが、すでにお年寄りであっても場所のみならず三十三観音像のことを知らない地区もあった。分からないと答えた人の家から僅か30メートルほど離れた場所で、草木に埋もれかけた観音像を探し当てたこともあった。

その一方で、観音像を守り続けている人々も少なくない。三十三観音のうち、第十三番の如意輪観音像は平成17年8月に盗難に遭い欠如したままになっていたが、心を痛めていた地元の人によって平成25年初秋に新たな観音像が新道沿いに祀られた。またその機会に、旧道に置かれている観音像のいくつかは、苔を落として盗難防止の措置を施し、集落の生活道路である新道沿いに設置し直され、人目に触れる機会が増えるようになった。新道沿いへの移設は盗難の恐れがあることや、旧道の存在が忘れられ

てしまうという懸念から、慎重な意見もあったようである。筆者はこれらの観音像の歴史的背景に鑑み、できるだけ旧道にある状態で記録することに努めたが、彫字などは清掃、移設された後に再度確認した。

今回調査した西国三十三観音像は百観音の中では比較的人目につきやすい場所に設置し直されているものも多いが、今後は当初の位置に祀られているものが多いという坂東三十三観音像、秩父三十四観音像について調査して行きたい。なお、本調査の一部は2011年度名古屋学院大学研究奨励金の援助を受けて実施した。

## 謝辞

今回の調査に際し、調査への賛同と資料の提供ならびに様々なご教示をいただいた平勝寺住職、佐藤一道師に深く感謝します。また、足助資料館では種々の資料の閲覧に便宜を図っていただいた。これらの資料は足助資料館で保管されているフィールドノート、パンフレットなどの印刷物、アルバムで、旧足助町教育委員会によって収集され、ファイルに綴じられたものである。

## 参考資料

- [1] 馬頭観音のふるさとを訪ねて―豊田・足助中馬の道写真集―（1980）後藤正男（自費出版）、朝日堂出版
- [2] 椿立家族ものがたり（2008）椿立自治区集落史編集委員会編、上郷印刷
- [3] 「献体登録数は21万6千で、20年前から倍増」読売新聞2008年3月22日
- [4] 「献体登録、20年で倍 解剖実習のための遗体提供 家族関係の薄さ反映？」朝日新聞2010年3月9日

綾渡平勝寺への西国三十三観音像

- [5] 「解剖実習の献体に“異変” 孤独死、葬儀費  
節約…医の倫理，行政に課題」中国新聞2010  
年10月2日

(以下は足助資料館所蔵の非刊行物)

- [6] 鳳凰山平勝寺 聖観世音菩薩御開扉募縁の趣  
旨 1959年  
[7] 祈りの山里 あやど 綾渡夜念仏盆踊保存会

1991年

- [8] 平勝寺 I・II  
[9] 石像物 東部  
[10] 石仏 東部II  
[11] 石仏 中部  
[12] 古石塔

([8]～[12] はアルバムで、いずれも制作年は不明)



# Saigoku Thirty-three Kannon along the Road to Heishoji in Ayado

Osamu Fujimori